

「肥のあけぼの」のマルチ被覆による果実品質向上

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

担当者：坂本 等

研究のねらい

県育成極早生温州「肥のあけぼの」の連年高品質果実生産を図るため、シートマルチ栽培の効果を検討し、実用に供する。

研究の成果

- 1 極早生温州「肥のあけぼの」に対する透湿性シート(タイベック)を7月中・下旬に被覆すると、土壤水分を乾燥状態に保持するため、10月下旬の収穫期には、無処理区より果実の糖度は1度以上高くなり、クエン酸含量は特に高まることはない。また、色づきは明らかに早められ、かつ、果皮色も紅が増しており、明らかに果実品質は向上する。
- 2 8月下旬被覆でも無処理区に比べると果実の糖度は高くなるほか、品質の向上も認められたが、7月中・下旬の被覆区には及ばない。
- 3 シートマルチによる樹勢低下は認められない。
- 4 本試験の結果、「肥のあけぼの」の高品質果実の安定生産を図るためには、7月中・下旬からシートマルチ資材を敷設する。

普及上の留意点

- 1 「肥のあけぼの」の色づきを早め、品質向上をねらうには、遅くとも7月下旬には敷設すること。
- 2 シートマルチ後、葉が萎凋して翌朝回復しないときは1樹当たり100リットル程度灌水する。

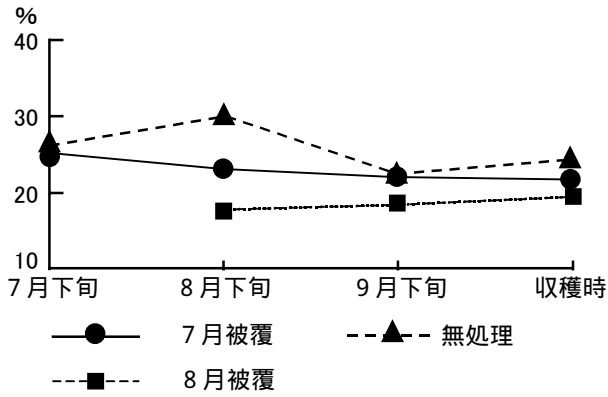


図1 土壤水分の推移 (平成7年)

写真1 マルチ栽培

注) 8月下旬採度前日に20mm程度の降雨があった。

表1 収穫時の果実品質

	果肉歩合 (%)	屈折計示度	クエン酸 (%)	果皮色 (a値)
(平成7年)				
7月被覆 (7/18)	80.0	12.0	0.88	19.78
8月被覆 (8/28)	79.0	11.7	0.98	17.73
無処理	79.8	10.8	0.81	14.74
(平成8年)				
7月被覆 (7/23)	76.9	12.0	0.95	22.32
8月被覆 (8/28)	77.8	11.3	0.87	21.49
無処理	84.6	10.7	0.93	20.32

注) 分析：平成7年10月30日、平成8年10月28日

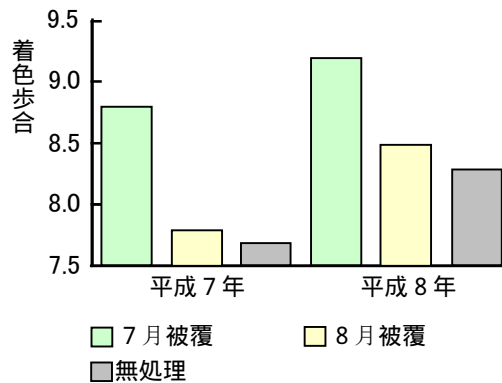


図2 処理別着色の程度 (収穫時)

表2 翌年の樹勢

(平成8年5月)

処理区	樹勢	新梢	新葉率 (%)	有葉花率 (%)	着花程度
7月被覆 (7/18)	強	多	52.5	40.6	中
8月被覆 (8/28)	強	多	60.5	31.0	中
無処理	強	多	56.0	35.0	中

注) 平成7年処理